

【選択必修領域】試験一括型

主な 受講対象者	学校種	幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)
	免許職種・教科等	幼・小・特支(小)教諭、養護教諭(小学校)
	職務経験等	特定しない
開設講習名	【選択必修】教育相談実践講座(幼・小)	
開設日	令和3年(2021年)8月20日(金)	
担当講師	武内 珠美(福祉健康科学部教授) 西村 薫(別府溝部学園短期大学幼児教育学科教授)	
履修認定試験<試験一括型> (4限終了後に試験を実施します。)		試験時に配付資料・ノートの参照：可 (タブレット端末の参照は不可)
<p>担当講師からの連絡事項等</p> <p>◆受講希望者には別途依頼文(実践事例提出)を郵送します。受講希望者は全員、講習3週間前の7月30日(金)までに実践事例を郵送またはメールで提出していただきます。</p> <p>◆『教育臨床の実際[第2版]』ナカニシヤ出版(武内珠美・渡辺亘・佐藤晋治・溝口剛編集)をできるだけ事前に購入の上、講習時に持参し講習修了後も活用するなどして、意欲的に学習することを推奨します。</p>		
1限 (9:00~10:15)	<p>(事例検討) 幼稚園・小学校で行う見立てに基づいた実践の進め方</p> <p>受講者の幼児・児童の教育相談実践事例の検討を行う。時間内で可能である選択された複数の事例についてインシデントプロセス法を用いて検討し、以下の事項について学ぶことを目的とする。</p>	
2限 (10:30~11:45)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検討を通して、幼児・児童や保護者、環境について必要な情報を集積する視点について学ぶ 2. そうした情報の集積に基づいて構築する幼児・児童および保護者・家庭への理解の作り方、幼児・児童の生涯を見据えた見立ての作り方について学ぶ 3. 事例の分析過程に基づき、カウンセリング的視点とケース・マネジメントの視点を取り入れた対応・支援策の具体的構築について体験的に学ぶ 	
3限 (12:45~14:00)	<p>(講義) 現代的な子どもの教育相談的な問題(発達障害やいじめ、不登校など)</p> <p>最新の知見を理解し、認識の仕組みや発達を支える環境について学ぶ。知見から検討した事例を照らしかえし、こころの世界について理解し、自身や他者、幼児・児童についての理解を深め、発達障害やいじめ、不登校などの現象を捉える視点を学ぶ。</p>	
4限 (14:15~15:30)	<p>(講義) 保護者への理解と対応・支援、他機関との連携</p> <p>事例に基づいた保護者への理解と関係のつくり方について、様々な工夫を教示し、その礎となる子どもへの影響、親子関係を捉える。生涯を見据えたケース・マネジメントの視点について学び、他機関との連携について具体的な手法を学ぶ。</p>	
(15:45~16:45)	履修認定試験	